高館小

主体的・対話的で深い学びを実現する授業づくり

～思いや考えを伝え、学び合う学習活動を通して～

（３年計画の２年次）

校長名　　古　戸　美　登　子

１　研究主題について

本校の教育目標は「たくましく生きる子」である。めざす児童像である「夢や志の実現に向かって学び続ける人間性豊かな子ども」の育成に向けて教育活動に取り組んでいる。

この具現のためには、児童が主体的、創造的に学習に取り組む資質や能力、態度を育てるとともに、積極的に他者と関わりをもち、学び合いながら問題を解決しようとする意欲を高めていく必要がある。

昨年度から、国語科を中心に、本校における主体的に学び合う子どもの姿について共通理解を図るとともに、児童に問いをもたせるための発問、学びを広げ深めるための学び合いのさせ方、活用につなげるための振り返りについて、授業研究に取り組んできた。

その結果、

(1) 判断のずれを生みだす発問をすることにより、発言しようとする児童やより深く考えた内容をノートに書いている児童が、見られるようになり、全体的に児童の学ぶ意欲が高まってきた。

(2) 友だちの意見を聞いた後によく考えて発言したり、友だちの意見と自分の意見を比較した後に付け加えて発言したりするなど、考えるためのポイントを押さえた聞き方ができるようになってきた。また、学習課題を明確にするために、焦点化した授業を展開することで、ペアやグループ、全体での話合いの内容が、課題を意識したものになってきた。

一方で、

(1) 振り返りの際は、ワークシートを活用して分かったことを明確化させたり、児童に活用場面を想定させたりするなど、習得と活用を意識した振り返りの場面を設定する必要がある。

という課題が挙げられた。

これらの成果と課題を踏まえ、今年度は、児童が主体的に学び合い、互いの考えを広げ深める授業づくりを目指すとともに、振り返りを工夫することで習得と活用につなげることができる児童を育てたいと考え、本主題を設定した。

２　研究のねらい

主体的・対話的で深い学びを実現する授業のあり方を、国語科における授業実践を通して明らかにする。

３　研究仮説

児童同士が思いや考えを伝え、学び合う学習活動を工夫することによって、主体的・対話的で深い学びを実現することができる。

４　研究内容

(1) 習得と活用を意識した授業のしかけ

ア　判断のずれを生みだす発問の工夫

イ　学び合いのさせ方（身に付けさせるスキル、形態、焦点化など）

ウ　振り返りのさせ方

５　研究の経過

(1) 研究仮説に基づく授業研究

月	日	学年・題材名・授業者
６	３０	第１回授業研究（６学年） 国語「時計の時間と心の時間」　教諭　安井　康智
９	２９	第２回授業研究（２学年）（要請訪問） 国語「お手紙」　教諭　佐藤　亜貴子

(2) 一般研修

月	日	内　　容
６	３	国語のデジタル教科書の活用について 講師　教育指導課主任指導主事　福田　秀貴　先生
７	１６	一人一台端末の活用の仕方（実践編） 講師　総合教育センター主任指導主事 石井　一二三先生
８	２３	絵画研修会　講師　川村　真弓　先生
９	２２	Chromebook の活用（実践編）
１１	２４	体育科における指導法（跳び箱） 講師　本校教頭　中村　雅人
１２	１	特別支援教育について　あじさい学級公開授業　教諭　粟津　綾子
１	１２	Chromebook の活用
２	１９	ＣＲＴ分析

６　研究の成果

(1) 判断のずれを生みだす発問をすることにより、叙述にしっかりと目を向けて考えるようになってきた。それに伴って、どの言葉や文章に着目して考えたのか、根拠をもって説明したり書いたりする児童が増え、 課題に対して児童の主体的に学ぶ意欲が高まった。

(2) 振り返りの際、ワークシートを活用して分かったことを明確化させたり、児童に活用場面を想定させたりすることで、次の学習への意欲につながった。

７　研究の課題

(1) 意見交流に留まらず、児童同士がより深い学び合いにつながるような工夫が必要である。

(2) 問いを正確に読み取り、自分の考えを簡潔に書かせたり表現させたりするための工夫が必要である。

（記入者　金田　光子）